

3 環境に配慮したやさしい暮らしづくり

(1) 環境にやさしい食生活の実践

現状と課題

食料の生産は自然の恩恵の上に成り立っています。健康で豊かな食生活を送るためには、この豊かな自然の恵みを享受し、継承していくことが必要不可欠です。

アンケート調査では、家庭で食事の「食べ残し」や「作りすぎ」のある人は8割以上となっています。また、食育で関心のあることとして「食品廃棄物の増加」と考えている人が約3割となっています。

このため、日頃から自然環境によって「食」が成り立っていることを意識し、環境に配慮した食生活を実践することが求められています。

施策の方向

自分の身近な食生活における環境への負荷の軽減のため、環境にやさしい料理の推進や食品リサイクルの普及啓発に取り組みます。

○家庭.....

■環境にやさしい食生活に取り組みましょう

- ・調理に必要な電気・ガスなどのエネルギーをむだなく使用し、洗剤の使い過ぎに気を付けて食器を洗うなど環境に配慮した食生活をしましょう。

■食品の廃棄を減らしましょう

- ・適正な食事量を知り、料理を作りすぎないようにしましょう。

○地域や園・小中学校・事業者.....

■環境に配慮した食生活の情報提供

- ・事業者は、環境に配慮した農作物、食品の情報提供を行います。
- ・スーパーマーケット等の食品販売店では、環境にやさしい料理のPRに努めます。
- ・環境に配慮した食生活の普及に努めます。

○行政

■環境に配慮した食生活の普及啓発

- ・環境に配慮した食生活の普及に努めます。

具体的な取り組み内容	対 象	取り組み主体 (担当課)
・地場産物を使用した給食の提供	園児	児童課 保育園
・地場産物を使用した給食の提供 ・残さいを減らす指導	園児・ 児童・生徒	庶務課 学校給食センター
・総合的な学習の時間で特産品を学ぶ (小学校3年・4年)	児童	学校教育課

- ・生産者に関する情報提供の機会を創出します。

■環境に配慮した体験機会の充実

- ・環境に配慮した料理教室や食品廃棄物の再利用などに関する体験活動を充実します。

具体的な取り組み内容	対 象	取り組み主体 (担当課)
・エコクッキング教室 ・生ごみたい肥化容器等購入費補助事業 ・家庭ごみ(生ごみ)の堆肥化のモデル事業 ・廃食用油のリサイクル(石けんづくり) ・広報の環境コーナー(ごみ減量など)	市民	環境課
・消費者と生産者との交流会、体験イベントの実施	市民	農務課 あおいパーク
・廃食用油のリサイクル	—	庶務課 学校給食センター

■食品の廃棄等を減らす意識の醸成

- ・ 出前講座等により廃棄する生ごみの減量化や「もったいない」という意識の醸成に努めます。

食育取り組み事例

廃食用油石けんづくり～不要になった天ぷら油をリサイクル～（環境課）

家庭で不要になった天ぷら油を回収し、これを材料にして粉石けんを作っています。できた粉石けんは市民のみなさんにお配りして、生活排水対策及びごみ減量についての啓発に努めています。



エコクッキング教室～親子でエコ＆ヘルシーなクッキングを～（環境課）

地産地消と健康をテーマとした料理教室を開催しています。夏休みの1日、エコな料理を親子で一緒に作り食するとともに、家庭でできる地球温暖化防止のことを学びながら、親子の対話を深めています。



(2) 地産地消の推進

現状と課題

地元でとれた食材を地元で消費する地産地消、旬の食材を旬の時期に食べる旬産旬消は、新鮮で安心できる食材の供給とともに、流通等に係る環境負荷の少ない仕組みです。

アンケート調査では、「地産地消」を知らない人は約3割となっています。また、家庭で地元産の農林水産物をあまり購入していない人は約3割となっており、地産地消の意識が市民に十分定着しているとは言えません。

このため、学校給食における地元産農林水産物の使用を進めるとともに、地元産農林水産物についての情報提供を促進し、消費者が手に入れやすい環境を整える必要があります。

施策の方向

地元でとれる農林水産物の消費や利用を促進するため、地元産農林水産物のPRを推進するとともに、食品販売店や学校給食などで積極的に利用を推進します。

○家庭.....

■地元でとれる食材を積極的に利用しましょう

- ・地産地消、旬産旬消の食材について、積極的に情報を取得し、大人がまず学びましょう。
- ・地産地消、旬産旬消の食材を家庭での食事に取り入れ、子どもに伝えましょう。

○地域や園・小中学校・事業者.....

■地元でとれる食材のPRと活用促進

- ・地元産農林水産物が買えるお店の情報を提供します。
- ・学校給食への地元産農林水産物の使用を進めます。
- ・生産者直売所など生産者と消費者が交流できる場を提供し、地元産の食品についての情報を共有します。

○行政.....

■地産地消のPRの促進

- ・地元の農業、漁業についての学習機会を提供し、地場産物への関心を啓発します。

■地場産物の活用促進

- ・身近な食材を使い、調理の楽しさや食べる喜びを体験する機会を提供し、地場産物への関心を促します。

具体的な取り組み内容	対 象	取り組み主体 (担当課)
・地場産物を使用した給食の提供	園児・ 児童・生徒	庶務課 学校給食センター
・碧南産小麦を使ったうどん作り体験の実施 ・碧南産大豆を使った豆腐作り体験の実施 ・碧南の特産物「人参」の講習会の実施	児童・生徒	農務課
・「もぎたて広場」産直市での地元産農林水産物の販売 ・地域の特産物や地元産農林水産物の加工品を販売	市民	農務課 あおいパーク

Topic



地産地消・旬産旬消のすすめ

地元でとれた食材を地元で食べる、旬の食材を旬の時期に消費するということは、生産者と消費者の距離が近く、より安心して食べられるということです。食品偽装など「食」の安心が脅かされる事件がおきていますが、それは流通過程が長いため起こりやすくなります。地産地消は消費者と生産者が顔の見える関係でいられ、流通過程が短くてすむのでより安心です。また、旬の食材を旬の時期に食べると食物のもつ栄養を最大限に摂取することができます。遠距離輸送には大量のエネルギー・二酸化炭素排出量等がかかります。フードマイレージ[※]の観点から考えても、地産地消なら不必要なエネルギーの消費、二酸化炭素の排出を削減することができます。地産地消は安心安全で地球にも優しい食材消費なのです。

フードマイレージ・・・「食料の (=food) 輸送距離 (=mileage) 」重量×距離（たとえばトン・キロメートル）であらわす。食品の生産地と消費地が近ければフード・マイレージは小さくなり、遠くから食料を運んでくると大きくなる。

食育取り組み事例

碧南産小麦を使ったうどん作り体験（農務課）

地産地消推進を目的として、碧南産農林水産物を使った料理講習会を行っています。農村生活アドバイザーの協力で碧南産小麦「イワイノダイチ」を使ったうどん作りをしています。普段食べているうどんとは違いますが、自分で作る事によって調理の楽しさや食べる喜びを感じます。



碧南産大豆を使った豆腐作り体験（農務課）

地産地消推進のため碧南産農林水産物を使った料理講習会をしており、生活改善実行グループの指導を受け、碧南産大豆「フクユタカ」を使った豆腐作りを体験しました。買ってきた豆腐とは違いますが、自分で作ることによって地場産物への関心を促します。



(3) 生産者・事業者等による食の安全の確保

現状と課題

食の安全性が損なわれると、健康に重大な影響・被害を及ぼす可能性があります。近年では、BSE※、鳥インフルエンザ※、残留農薬、食品表示の偽装など食品の安全性や信頼性を揺るがす事件の発生により食品への不安を感じている消費者が多い現状があります。

アンケート調査では、食事や食材等を決める要因として、食品の安全性をあげる人が約6割と意識の高さが伺えます。また、食材や食品について知りたいこととして「食品添加物の有無」「賞味期限、消費期限」の割合が高くなっています。

こうした消費者の現状に対して、生産者と消費者の知識の差をなくすための情報提供を十分に行い、生産から流通、消費までの流れを明確にわかるようにする必要があります。

施策の方向

化学肥料・化学合成農薬の低減や、GAP手法※の導入、持続性の高い農業に取り組むエコファーマー※の育成、食品関連事業所における食品リサイクルの推進を進めます。

○家庭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

■食品表示などを積極的に活用しましょう

- ・生産者、加工業者、流通業者の情報を確認しましょう。
- ・食品表示などについて学び、正しい知識を身につけましょう。

BSE…	牛の脳の組織にスポンジ状の変化を起こし、起立不能等の症状を示す遅発性かつ悪性の中枢神経系の疾病。
鳥インフルエンザ…	A型インフルエンザウイルスが鳥類に感染して起きる鳥類の感染症。
GAP手法…	(Good Agricultural Practice) 農業者自らが点検項目を決定し、点検項目に従い農業を行い、記録し、それに基づいて評価し改善点を見出し次回の作付けに活用するという「農業生産工程の管理手法」のこと。農産物の安全性や品質の確保の上で有効な手法。
エコファーマー…	農業の持つ物質循環機能を生かし、堆肥等による土づくり、化学肥料や化学合成農薬を減らす栽培に取り組む農業者。

○地域や園・小中学校・事業者・・・・・・・・・・・・・・・・

■食品の安全性に関する情報提供

- ・食品の安全性や食品産地等の食に関する情報を的確かつ分かりやすく伝えます。
- ・化学肥料・化学合成農薬の低減に努めます。
- ・GAP手法の導入、エコファーマーを育成します。

○行政・・・・・・・・・・・・・・・・

■農業生産における環境への配慮

- ・県と連携して生産者に対し、農薬の適正使用を啓発します。
- ・防虫剤などの薬剤使用者へ状況に応じた適正散布を啓発します。

具体的な取り組み内容	対 象	取り組み主体 (担当課)
・農地に隣接した公園緑地、街路樹、保存樹林等への薬剤散布の配慮	市民	公園緑地課

■食品リサイクルの促進

- ・食品関連事業所へ食品リサイクルの取り組みを働きかけます。